

# 飼料用米栽培に係る普及活動事例

1 普及部名 島根県西部農林振興センター益田事務所農業普及部

2 飼料用米導入の経過

- ・ 水稲単作の兼業農家主体の農業法人である。既存の機械で対応可能な水稲以外の有望作物を模索。
  - ・ 国、県で H20年度から畜産粗飼料確保のため飼料用米関係の助成事業が創設された。
  - ・ 既存機械だけで栽培が可能、労力負担が少ない、新しい技術が不要、かつ飼料用米の需要が十分あること
- 以上のことから、有望作物として導入に至った。

3 普及活動の経過

年月日	内 容	参加者数
H20. 5. 10	栽培講習会	JA、普及部、法人構成員
H20. 7. 14	ほ場巡回	関係機関4名
H20. 7. 22	穂肥指導	法人代表者
H20. 8. 18	病虫害防除指導	法人代表者
H20. 10. 2	収量調査	普及部

※生育調査10日毎に実施

4 飼料用米栽培管理記録

■栽培者

栽培者氏名	住 所	品 種	栽培面積
A 法人	島根県益田市	タカナリ	3.0 a

※ h 1 9 保安全管理

■育苗・田植えの状況

育苗状況		田 植 状 況			
播種時期	播種量	田植時期	植付株間	植付密度	使用育苗箱数
5月18日	120 g/箱	6月18日	21 cm	15.9株/m <sup>2</sup>	22 箱/10a

■土づくり・施肥の状況

	施用時期	肥料等の名称	施用量(kg/10a)	備 考
土づく り肥料	月 日			
	月 日			
元 肥	6月11日	アラジン403	40 kg	
	月 日			
穂 肥	7月20日	アラジン403	20 kg	
	7月30日	アラジン403	20 kg	

■病虫害防除の状況

	施用時期	農 薬 名	施用量(kg/10a)	備 考
殺虫・ 殺菌剤	6月18日	嵐プリンス箱粒剤	1 kg / 10a	
	8月23日	フグサイトスター粉剤	4 kg / 10a	
除草剤	6月27日	シグ乳剤	500ml / 10a	
	8月 6日	クインチャー1キロ粒剤	1 kg / 10a	

■水管理の状況 (出来る限り落水状態で管理)

中干し期間	月 日 ~ 月 日	落水時期	月 日

■収穫・出荷の状況

収 穫 状 況		
収穫時期	収穫量	倒伏程度
10月2日	427 kg	大・中・小・ <b>無</b> (いずれかに○印)

■生育状況調査

調査月日	移植後日数	生育調査結果		
		茎数(本/m <sup>2</sup> )	草丈cm	葉色(sp値)
7月7日	+20日	219.4	37.6	31.4
7月22日	+30日	432.5	62.5	42.0
7月29日	+40日	380.0	66.5	36.3
	+50日			
7月30日	幼穂形成期	380.0	66.5	36.3
8月20日	出穂期	267.1	80.3	42.0
9月8日	成熟期	稈長(cm) 60.4	穂長(cm) 24.0	穂数(本/m <sup>2</sup> ) 278.3

5 生育状況及び収量等に関するコメント

(1) 生育経過

- ①かなり発芽が悪く、その後の生育はやや不揃いとなった。病害虫の発生もなく苗質は概ね良好であった。
- ②移植後の活着及びその後の分けつの発生は良好であった。
- ③幼穂形成期直前まで急激に茎数が増加したが、その後は急激に減少した。草型は他の品種に比べてかなり短く、かつ太く剛健であった。葉色は濃いめに推移した。
- ④出穂期は8月20日であった。短稈のためか穂が葉鞘から完全に抜けなかった。
- ⑤成熟期は10月4日であった。成熟期の調査では、稈長が60.4cmと非常に短く、穂長は24cmと非常に長く、1穂粒数は200粒を超えていた。有効茎歩合は64%と低かった。また、この品種は脱粒性が強く、かなりの収穫ロスがあった。
- ⑥病害虫についてみると紋枯病、イネアオムシ、セジロウンカが多発した。

(2) 収量について

1穂当たりの粒数は非常に多く多収が期待されたが、①有効茎歩合が低く、m<sup>2</sup>当たりの粒数が確保できなかったこと、②穂が抜けきれないため登熟が非常に悪かったこと、③脱粒性が強く収穫ロスが大きかったこと、④紋枯病等の病害虫による減収があったこと、などにより期待したほど収量があがらなかった。

(3) 今後の普及見込み

飼料用米生産は、既存の稲作用機械のみで新たな投資がいらぬことと、助成事業が創設されたことから、主食用米にかわる有望作物のない中では農家メリットが大きい。しかし、肥料高騰もあって、生産物のみでは採算がとれないため、助成金だのみとならざるをえない状況にある。

今後の普及のために次の課題があげられる。

- ①多収品種の開発及びその安定多収栽培技術の確立
- ②畜産農家への飼料用米需要拡大対策の推進
- ③飼料用米価格設定の検討
- ④生産を可能とする助成体系の継続